

2024年3月24日 受難主日礼拝説教

「十字架から見える人々」(マルコ15章1～41節)

◎聖書朗読：マルコ15章1～32節(新約94ページ)

「イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。」(25節)

人の姿をとった罪なき神の子イエスが、十字架につけられた。釘で打ち抜かれた体から血は流れ、耐え難き痛み、苦しみに苦しみ、人々の嘲り、罵りを受け、ただ死ぬことだけを待ち続けた。

問：十字架から見える人々に、キリストは何を思ったのか？

「他人は救ったのに、自分は救えない。メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」(31,32節)

☆だれのための十字架なのか、だれも分からない。それでも救い主は黙ったまま、ご自身の死により神の愛を示される。

※十字架より〈あなた〉を見るキリストは、何を思うのか？

◎聖書朗読：マルコ15章33～41節(新約96ページ)

午前九時から十字架につけられた神の子イエスは、死の時が近づいた午後「三時に」(34節)、大声でこう叫ばれた。

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(34節)

☞神は、すべての人を救うため、ご自身の独り子だけを救うことなく、父と子の交わりを絶ち、よみに降らされた。

今日のみことば：ヨハネ15章37節

「しかし、イエスは^{おおごえ}大声を出して^だ息を^{いき}引き^ひ取^とられた。」

神そのものである御方が、〈ひとりの人〉として死に、息もなく、命も止り、血だらけの十字架の上で動かなくなった。

「(どんなものも)わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない」(ローマ8章39節)

※愛されていないと思う時ほど、十字架のイエスを仰ぎ見よ。